

令和5年度習志野市総合防災訓練  
(大地震想定)  
成果について

令和5年11月  
危機管理課

## 総合防災訓練成果：その1

<b>成 果 概</b>	<p>今年度の訓練は、「地域住民間の顔見知り以上の関係の構築」を軸に市内24会場で実施し、会場となる避難所に2,470名の市民参加を得た。特に、障がいを持たれている方が車椅子での参加や医療機器を携行した状態での参加など、「会場に来るのは大変だけど、自分を知ってもらうために参加した。」との意見をいただいた。</p> <p>併せて、令和4年度に引き続き感染症対策に重点をおいた訓練と地域住民からの要望を取り入れた個別課目訓練を実施し、全般を通じて、市民及び参加職員から貴重な意見を得るとともに再整備した機材の取り扱いや電源確保について、新たな課題となる事項等、多くの教訓を得ることができた。</p>
----------------------	--

防災訓練の概要		
目 的	① 大地震想定による「災害時の行動や活動の習得」 ② 市民、市役所、関係機関が連携した、「自助・共助・公助の確認」 ③ 地域間でのコミュニケーションによる「地域住民間の顔見知り以上の関係の構築」 ④ 避難所開設・運営に重点（感染症対策⇒受付要領、避難生活空間の確保など） ⑤ その地域の要望を取り入れた個別課目訓練の実施	
日 時	令和5年11月5日（日）午前9時00分～午後0時30分（3時間30分）	
会 場	24か所 ／ 26か所	市内公立小学校 14校／16校 ※屋敷小・向山小は、改修工事により使用不可 市内公立中学校 7校／7校 ※応急救護所訓練を1、2、7中で同時に実施 市内高等学校 3校／3校
訓練項目	市民防災力 向上訓練	1 市民初動 シェイクアウト、脱出口の確保、火災予防措置 2 地区対策支部運営 安否確認情報の集約、安否情報・避難者情報を災対本部へ報告 3 避難所運営 2段階の受付・受入、感染症対策のパーティション組み立て 4 個別課目 応急給水・救護・手当、初期消火、防災資機材の設置等 5 医療的ケア児への対応 自宅からの移動、医療機器への充電・導通、トイレ体験
	医療本部・ 応急救護所訓練	6 医療本部との連携 応急救護所との通信確保、患者のトリアージ、病院との連携
参加機関 ・団体	国	陸上自衛隊第1空挺団第3普通科大隊、航空自衛隊中部高射隊第1高射隊
	県	県企業局船橋水道事務所、県葛南地域振興事務所、県警察習志野警察署
	市	市健康福祉部、市消防本部、市消防団
	民間	NTT東日本・南関東、東京電力パワーグリッド、日本大学生産工学部、医師会、歯科医師会、薬剤師会、助産師会、京葉地域獣医師会、アマチュア無線非常通信連絡会、タクシー協会、WOW!TOWN幕張

総合防災訓練成果：その2

細部訓練成果		
区分	評価	内 容
避難所運営 訓練参加者数	継続	2、470名：24か所（R5年度）／1、991名：16か所（R4年度） ※4年度と比較すると参加数は増加しているものの、会場数を考慮すれば、0名の会場有
	継続	514名の市職員及び関係機関の方々が参加、新規の関係機関4団体が参加（協力） ①県警察習志野警察署が集団避難訓練対応 ②県助産師会が母子避難訓練対応 ③県葛南地域振興事務所（地域防災課）がトラック協会と連携してエアータント資機材を輸送し、東習志野小学校で展開 ④WOW! TOWN幕張が避難所における電源の確保として電源車を展示
会場の設定	継続	24か所とし、工事等で使用できない避難所以外は、実施 ※有事の際、どこかの避難所でも開設できるように引き続き、27か所を前提として訓練を継続
会場ごとの 参加状況	継続	24か所の内、14か所を4年度に引き続き会場として設定 ※8か所で増加、6か所が減少（内4か所は減少数20名以下の微小で参加者数70名～190名規模）
	改善	新規の10か所において、3か所が0名～10名程度、7か所で40名～170名の参加 ※参加者が0名の会場は地区の小学校をメインとしているため、地域と調整し、会場を設定別紙「訓練会場ごとの参加状況」
市民初動	継続	地域（町会・自治会等）によって、安否確認の方法がわからないとの意見が有 ※研修会等を通じ、他町会等が実施している要領を紹介し、啓発
地区対策支部	調査	災害対策本部との連絡・報告において、一部の地区対策支部施設内において、防災行政無線移動系が「圏外」の地区が2か所あり、施設外（校庭等）で連絡を確保したため、報告に要した時間大 ※地区対：実籾小、東習志野小 ※避難所：谷津小、東習志野小、袖東小、香澄小、谷津南小、第一中、第三中、第六中、習高
	検討	学校職員よりも早く会場に到着し、セコムに気付かず渡された学校の鍵で開錠したため、警察とセコム対応が生起 ※事前に学校職員との当日の開錠等について要調整
	検討	全体的に避難所配備職員の人数が少ないと感じ、地区対策支部職員が応援、1～2名は多く配備してもよいのではとの意見有 ※避難所配備職員3名⇒4名、地区対策支部職員4名⇒3名の体制を検討

## 総合防災訓練成果：その3

細部訓練成果		
区分	評価	内容
避難所運営	検討	<p>地区対策支部に比べ避難所配備職員の負担が大、避難所の設置や資機材の準備及び避難者の対応を考察すると、3名での対応は大変厳しい</p> <p>※避難所配備職員3名⇒4名、地区対策支部職員4名⇒3名の体制を検討</p>
	改善	<p>避難所となる体育館が2階に設置されている場合、高齢者・足の不自由な方への支援要領及び1階での対応が必要</p> <p>※学校側と検討し、高齢者等の要配慮者対応の施設を調整し、マニュアルへ反映</p>
	継続	<p>普段から訓練が必要であり、年一度ではなくもっと回数多く（訓練回数年に2、3回）との希望有</p> <p>※次年度以降も同様の参加型防災訓練を継続・検討、地域主催の訓練等への参加も含め調整</p>
	改善	<p>受付後の避難所運営訓練や個別課目訓練への移行までの待機が長く、訓練統制が不十分</p> <p>※避難所配備職員のさらなる知識向上の為、避難所運営について研修等による知識付与</p>
個別課目	改善	<p>災害用トイレについて、昨年度ラップポン洋式タイプを整備したが、組立て方法や電源の確保について課題が発生</p> <p>※資機材の取扱要領の習熟及び不測時の資機材の活用方法の知識付与</p>
	継続	<p>初期消火、応急救護・手当については、初動時の基本的事項であり、高評価</p> <p>※今後は、ロープワーク等取り入れより充実感のある訓練を計画 (今年度も一部地域では、ロープワークを実施、高評価を獲得)</p>
	継続	<p>今年度は、関係機関において新規参加団体が多数あり、参加者に対して災害時の対応や知識を付与</p> <p>※引き続き、災害時の行動や活動内容習得を狙いとして関係機関の増加を調整</p>
その他	継続	<p>第二中学校において、医療的ケア児と家族に対する対応の実施により課題を案出</p> <p>※避難所への移動、蓄電池に医療機器への充電、災害時のトイレ</p>

## 総合防災訓練成果：その4

細部訓練成果		
区分	評価	内 容
アンケート 結果	継続	<p>避難所運営訓練及び個別課目訓練の参加者2,470名の内、アンケート回答者1,145名から貴重な意見・課題を確認</p> <p>※34名の20代と19歳以下及び143名の町会・自治会未加入者からも回答</p> <p>①勉強になった。ありがとうございました。</p> <p>②昨年よりいろいろ体験できてよかった。</p> <p>③今後も備えのために実施をお願いします。</p> <p>④心臓マッサージやAEDの使い方について知れた。</p> <p>⑤個別課目訓練の種類を増やして欲しい。</p> <p>⑥もしも、本当になったら教えてもらったやり方で身を守る。</p> <p>⑦消火器が1回につき、14秒しかもたないということが分かり驚きました。</p> <p>⑧今回初めて防災訓練に参加した。何も知らぬ状態だったんでとても勉強になった。</p> <p>⑨気候の上で今回の様に（9月より）11月の方がよかった。</p> <p>⑩3連休の日曜日は集まらない。</p> <p>⑪マイク等で拡声してもらえると聞き取りやすいと思う。</p> <p>⑫避難所に移動する途中のマンションが同じ避難所ではなかった。避難先は定期的に見直した方が良く考えている。</p> <p>⑬アナウンス・拡声器の声が通らず聞き取りづらい。</p> <p>⑭職員等、誰がどこにいるのか分かるようにすること</p> <p>⑮パーテーション等どのように並べるのか説明が必要</p>

## 訓練会場ごとの参加状況

別紙

連番	訓練会場	令和 4年度	令和 5年度	増減数	増減率 (R4比)		評価	分析
1	実花小学校	145	106	-39	27%	減	×	2日前実施された実籾ふる里祭りの影響と思料
2	東習志野小学校	197	190	-7	4%	減	△	微減であるが前回並み
3	第四中学校	0	0	0	—	—	×	連合町会の統制により東習小学校を会場として指定
4	習志野高等学校	0	68	68	—	—	—	2日前実施された実籾ふる里祭りの影響と思料
5	実籾小学校	0	168	168	—	—	○	実籾小学校校区の会場設定について、町会と調整し、 検討が必要
6	実籾高等学校	226	119	-107	47%	減	×	
7	第六中学校	0	161	161	—	—	○	屋敷小学校校区で考察するとR4年度に比し23%減
8	大久保東小学校	97	146	49	1.51倍	増	○	地域の意識が高く、ボーイスカウトの参加が影響
9	大久保小学校	188	178	-10	5%	減	△	微減であるが前回並み
10	第二中学校	0	11	11	—	—	○	一部の市民、町会の統制により実籾高校へ参加
11	藤崎小学校	120	163	43	1.36倍	増	○	地域の意識が高く、住民への周知が浸透
12	第五中学校	0	73	73	—	—	○	R4年度連合町会主催の訓練より増加、意識が高い
13	鷺沼小学校	101	133	32	1.32倍	増	○	地域の意識が高く、住民への周知が浸透
14	津田沼小学校	91	110	19	1.21倍	増	○	
15	谷津小学校	116	97	-19	16%	減	×	3連休の最終日と開催時期の特性により減少と思料、 開催時期及び中高層住宅住民への対応の検討必要
16	谷津南小学校	76	67	-9	12%	減	×	
17	第一中学校	0	45	45	—	—	○	個別課目訓練等の内容について要検討
18	袖ヶ浦西小学校	82	119	37	1.45倍	増	○	地域の意識が高く、住民への周知が浸透
19	袖ヶ浦東小学校	108	193	85	1.79倍	増	○	
20	第三中学校	0	57	57	—	—	○	個別課目訓練等の内容について要検討
21	秋津小学校	68	83	15	1.22倍	増	○	地域の意識が高く、住民への周知が浸透
22	香澄小学校	125	133	8	1.06倍	増	○	
23	第七中学校	0	1	1	—	—	—	連合町会の統制により香澄小学校を会場として指定
24	津田沼高等学校	0	49	49	—	—	○	個別課目訓練等の内容について要検討
計		1,991	2,470	479	—	—	—	※総括で記載

総括	<p>1. 令和5年度は、屋敷小学校と向山小学校は、改修工事のため会場として設定しなかったものの市内24箇所で実施した結果、昨年度より479名増の市民の参加を得た。</p> <p>2. アンケート結果も含め引き続き、各会場での参加型により意識の向上と知識の習得及び課目の精選が必要と思料する。</p>
----	--